



「みんなで支えあう 緑と元気あふれる 住みよいまち 尾張旭」をめざして

このたび、今後の尾張旭市のまちづくりの指針として「尾張旭市第五次総合計画」を策定しました。

策定にあたり、多くの貴重なご意見、ご提案をいただきました市民の皆さまをはじめ、熱心にご審議いただきました総合計画審議会委員の皆さま、市議会並びに関係機関の皆さまには、心から厚くお礼申し上げます。

総合計画（基本構想）に関しましては、平成23年の地方自治法改正により、「議会の議決を経て基本構想を定める」条項が削除されたことにより、「総合計画を策定しない」という選択肢もありましたが、今後まちづくりを進めていくにあたり、中長期的な視野に立った取り組みを実施するうえで「柱」となる指針は必要であると考え、「総合計画を策定する」としました。

第五次総合計画の策定にあたり、一番苦勞し、そして時間をかけたのは都市像についての議論でした。最近10年間の市の取り組みで「健康都市」が定着してきたこともあり、「健康」という言葉を都市像に入れるべきという意見も多くありました。一方で、第一次、第二次と都市像に「健康都市」を入れ、第三次、第四次と「公園都市」を入れてきたなかで、20年前に戻ってしまうという意見もありました。最近10年の健康都市づくりの取り組みは、総合計画とは別の枠組みで実施してきたという現実もあり、最終的には「元気あふれる」という言葉に集約することといたしました。

この都市像のなかで、特徴的なものは「みんなで支えあう」と「住みよい」という言葉だと考えています。これからの時代は、多くのかたにそれぞれの立場で協力していただくことが不可欠であると考えており、「協働」という言葉では少し硬い感じがいたしますが、「支えあう」という言葉を使うことで、やわらかくまたイメージしやすいものになったと思います。

また、人口減少、少子高齢化の急速な進行により、今後10年は「人口増加を図り、少子高齢化を抑制する」取り組みが必須になってくると考えています。これはとても困難が伴う取り組みではありますが、挑戦的な意味合いも込めて総合計画の中に盛り込みました。この点が第五次総合計画の「目玉」と言っても過言ではないと思います。その実現のためにも、まちの魅力を高め、内外に発信していくことが必要であり、住宅都市として発展してきた尾張旭市にふさわしい「住みよい」という言葉にその強い決意を込めさせていただきました。様々な取り組みを通して、尾張旭市の魅力を知っていただき、市外のかたから「尾張旭市に住んでみたい」と思ってもらえるようなまちづくりに取り組んでまいりたいと思います。

この総合計画の推進や都市像の実現にあたっては、多くの市民の皆さまのご理解とご協力が不可欠であると考えております。行政組織におきましても、複雑化する行政課題に対して、組織を横断した取り組みを進めてまいりますので、市民の皆さまにも、様々な場面でのご協力をお願いいたします。

この総合計画の策定にあたりましては、これまでの総合計画審議会に市議会から委員を送っていただく形式を止め、都市像や施策などの検討段階において、住民の代表である議員全員からご意見をいただく機会をそれぞれ設ける形式といたしました。こうした新しい取り組みは、今後策定作業に入る多くの自治体に参考にしていただける特色ある取り組み、そして総合計画になったと自負しております。

皆さまにおかれましては、この総合計画の内容をよくご理解いただき、今後も一層の市政へのご協力、ご参画をお願いいたします。

平成26年3月

尾張旭市長 水野 義則